

一般社団法人 日本森林学会

2021年度の「林業遺産」に3件が 選定されました

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れつつ、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。9年目となった2021年度は、3件を林業遺産（登録No.46～48）として認定しました。選定結果は、2022年5月20日の日本森林学会定時総会において公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/efforts/forestryheritage/>



登録 番号	46	47	48
林業 遺産名	林業機械化センター保存の森林鉄道 車両群と根利森林鉄道遺構	ながはしりふうけつ 長走風穴種子貯蔵庫遺構	旧青森営林局庁舎 (現青森市森林博物館)
認定 対象	林業機械化センター保存の車両群、 根利森林鉄道遺構	長走風穴種子貯蔵庫遺構群、関連す る古写真等	旧青森営林局庁舎
成立 年代	車両群：1921年～1961年 森林鉄道遺構：1940年～1952年	1912年	1908年
所在地	群馬県沼田市利根町根利1,445番地 関東森林管理局利根沼田森林管理 署管内国有林内	秋田県大館市長走字長走362-3	青森県青森市柳川2丁目4-37
所有・ 管理者	車両群：林野庁森林技術総合研修所 林業機械化センター 根利森林鉄道遺構：林野庁関東森林 管理局利根沼田森林管理署	大館市	青森市
認定 理由	森林鉄道の発展過程を理解する上で 重要な車両群が保存されており、隣 接する森林鉄道遺構と合わせて、当 時の技術を現地で理解することが出 来る。	種子貯蔵の中核として、近代における 東北地方の造林事業を支えた施設で ある。貯蔵庫部分は完全な形で現存し ており、その歴史を今に伝えている。	青森・岩手・宮城3県にまたがる広大 な国有林経営の中核的施設であり、 貯木場と製材所、森林鉄道が併設す る国内最大規模の林業拠点として、青 森ヒバの流通に貢献し、地域の発展 を支えたという歴史を象徴している。
			